

## 横浜市における地域交流コーディネーターの実践

－住民主導のまちづくりを目指して－

○ 汲沢地域ケアプラザ 金子 裕利 (8919)

キーワード：地域ケアプラザ、地域交流コーディネーター、ソーシャルキャピタル

### 1. 研究目的

横浜市は平成3年11月全国に先駆けて市内で初めて在宅支援サービスセンターを設置した。その後条例が整備され中学校区に一館「身近な相談出来る地域の交流拠点」として地域ケアプラザ（以下ケアプラザ）の設置が進められた。現在はケアプラザ全てに地域包括支援センターが設置され、市内18区133館となっている。当初から横浜市独自の職種として「活動・交流・相談スタッフ」、現在の地域交流コーディネーター（以下コーディネーター）が各ケアプラザに1名配置されている。筆者は平成15年4月に汲沢地域ケアプラザのコーディネーターに着任し世帯数10,687世帯、人口24,422人、高齢化率27.4%、25自治会町内会の地域を担当している。筆者はコーディネーターとして「住民主導のまちづくり」を目指して取り組んできた。それは地域住民自らが地域を知り・気づき・取り組むことを基本としている。筆者自身が地域の持つ魅力や地域を支える住民の力を実際に体験したことが現在の取り組みに繋がっている。

本研究では「住民主導のまちづくり」を進めるためのコーディネーターと地域住民との関係性に焦点を当てて報告する。

### 2. 研究の視点および方法

アンケート調査では、コーディネーターが地域に関わる姿勢や意識を振り返る中で地域住民とどのような関係性が構築されたのか、地域においてコーディネーターがどのような存在として住民が認識しているのかを明らかにした。対象は担当している自治会町内会の集合体である地区連合町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会などである。

### 3. 倫理的配慮

アンケート調査の実施に際しては匿名とし質問への回答は任意とした。また社会福祉学会研究倫理指針に基づき倫理上の配慮を行っている。

### 4. 研究結果

コーディネーターは平成19年度以降各地域活動団体にアウトリーチを試みた結果、現

在 13 箇所の各地域活動定例会にほぼ毎月出席し、また平成 23 年度以降、新たに開始された住民主導の活動やイベント等に至っては 10 の事業にのぼりコーディネーターは何らかの形で携わっている。

今回のアンケートからコーディネーターが地域の中で相談・調整役として役割を果たしていることが見えてきた。それはコーディネーターとして「自分がこうなっていくだろうなというイメージの中で住民の人に寄り添いつつ、話をいろんなところで切り口を作りつつ、でもあくまでも皆さんに作って決めてってもらう関わり方」を意識して関わってきた結果であり、専門職が考えた地域の理想像やシステムを一方向的に当てはめるような関わり方をするのではなくあくまでも地域住民の目線に立ち住民自身が考える地域像を尊重しそれに向かって取り組んでいくプロセスを大切に関わり続けている結果でもあるといえる。そしてコーディネーターの認知度は 77 名の回答者のうち 90%がコーディネーターを知っていると回答し、コーディネーターが地域活動に与える影響の有無や必要性についても 96%の方が「何等かの影響があり必要性を感じる」と回答している。コーディネーターという職種は知らなくてもコーディネーターが地域において必要な存在になり得ているという結果となった。また「コーディネーターはどのような存在か」（自由記載）では「地域活動の仲間」とした回答が一番多く、その他「理解者」や「地域のまとめ役」、「よき相談相手」、「家族」などの回答だった。今回のアンケートはコーディネーターが地域へ関わり続けた結果、コーディネーターと地域との関係性を表すものとなった。

## 5. 考察

今回の調査からコーディネーターの存在が地域において「地域活動の仲間」、「理解者」、「地域のまとめ役」などと認識されていることが分かった。上下関係ではなく、お互いに持っている力を活かし学び分かち合う関係、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）の関係性の構築が必要である。コーディネーターの役割は地域特性を理解し、「互助」、「公助」、「自助」の関係を調整、コーディネート、コンサルテーションであると考えている。